



1,6_内子高校郷土芸能部と和太鼓集団「和達」の演奏が合戦を盛り上げる 2_ 風の激しい空中戦をユニークな踊りで表現 3,4_ 豊秋橋を舞台に中学生や大人たちが風踊り 5_ 出陣のエールを送る「大風出世太鼓」 7_ 五十崎中男子生徒の風合戦。合図とともに元気よく走り出す 8_ 笑顔を見せる参加者 9_ 縦14.4メートル、横12.5メートルの百畳大風を懸命に引っ張る 10_ 勢いよく川にぞぶる男たち。水しぶきと歓声があがる 11_ 絡み合う風。勝負の行方は――



400年の歴史を誇る「いかざき大風合戦」(同実行委員会主催、小野尚久実行委員長)が5月4・5の両日、豊秋河原などで行われました。4日には子どもの健やかな成長を願う初節句神事、5日には大風合戦のほか、大風出世太鼓や風踊りが披露され、大勢の人でにぎわいました。

約80チームが参加した合戦は、「ガガリ」という刃物を仕込んだ風糸を操って相手の風を切り落とします。絶好の風を受けて舞い上がった無数の大風が、縦横無尽に合戦を繰り広げると、会場からは大きな歓声が上がっていました。注目の百畳大風も過去最高の揚がり具合で大成功。描かれた「紀」の文字には、姉妹町村提携50周年を迎えた沖縄県宜野座村と内子町とが、世紀を超えて交流を続けてほしいとの願いを込めました。

小野実行委員長は「久しぶりの開催を祝うかのように、いい風が吹いてくれた。みんなで盛り上がり、喜びもひとしお。協力してくれた皆さんに感謝」と笑顔で語りました。

五十崎の大空に4年ぶりの風と歓声 いかざき大風合戦

